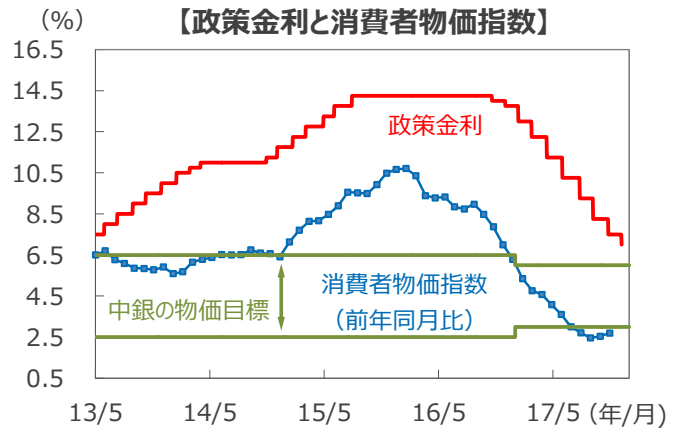


今日のトピック ブラジルの金融政策（2017年12月）

0.50%利下げ、緩和サイクル継続を示唆

ポイント1 0.50%の利下げ 政策金利は過去最低に

- ブラジル中央銀行（以下、中銀）は、12月6日の金融政策委員会で、政策金利を0.50%引き下げて、7.00%とすることを全会一致で決定しました。利下げは10会合連続で、前回会合から利下げ幅が0.25%縮小しました。政策金利は過去最低となりました。

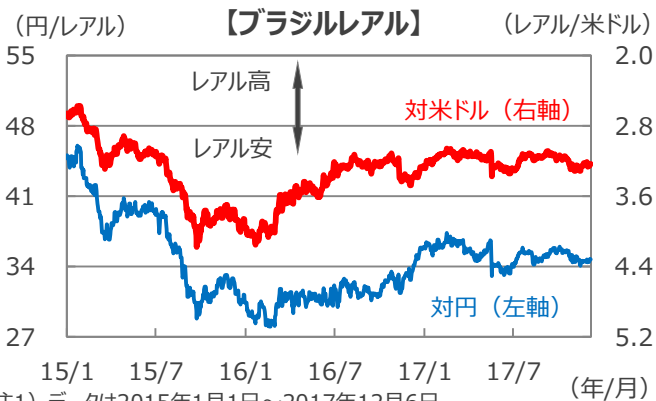


(注) 政策金利は2013年5月1日～2017年12月6日。消費者物価指数は2013年5月～2017年10月。中銀の物価目標は年率+4.5%で、レンジは2016年末までは±2%、2017年は±1.5%。

(出所) Bloomberg L.P.、ブラジル中央銀行のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 緩和サイクル継続を示唆 利下げペースは減速

- 10月の消費者物価は前年同月比で+2.7%と2カ月連続で上昇しましたが、中銀の目標レンジ(4.5%±1.5%)の下限を下回っています。
- GDP成長率が3四半期連続で前期比プラスとなるなど景気が緩やかに回復し、インフレ率が底打ちしている中で、中銀は前回0.75%、今回0.50%と、過去2回の会合で利下げペースを落としてきました。
- 中銀は声明文で、次回（18年2月）の会合では、経済環境が想定通りなら利下げペースを更に落とすことが適切とし、金融緩和の継続を示唆しました。



(注1) データは2015年1月1日～2017年12月6日。

(注2) (レアル/米ドル) は逆目盛。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 レアルは上値の重い展開

- 中銀のガイダンスによれば、18年2月の金融政策委員会では0.25%の利下げが行われる見通しです。ただし、中銀は、次回の利下げは過去の会合よりも環境変化の影響を受けやすいと指摘しました。景気回復ペースやインフレ動向に加え、テメル政権の財政健全化へ向けた年金改革の進展度合いなどによって金融緩和サイクルは影響を受けそうです。
- 利下げを受けた通貨レアルは、小動きにとどまりました。金融緩和効果などによって景気は回復基調にあるものの、テメル政権の改革が遅れるリスクがあり、レアルは当面上値が重い展開となりそうです。

ここもチェック! 2017年11月21日 ブラジルの経済・市場動向（2017年11月） 2017年10月26日 ブラジルの金融政策（2017年10月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。